

東京ニュービジネス協議会

国際部門 2018 海外視察

香港・深セン

実施報告書

<運営企業>

主催：一般社団法人東京ニュービジネス協議会

共催：公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会

後援：一般社団法人日中企業家联合会・JCE ホールディングス合同会社

<日程>

2018年11月27日（火）～11月29日（木）

目次

- I 参加者名簿
- II 期間
- III 渡航費用
- IV スケジュール
- V 企画アウトライン
- VI 成果報告
- VII 視察内容（レポート）

以下のとおり、「香港・深セン視察会」につき、報告する。

I 参加者名簿

22名+事務局1名 計23名(敬称略)

	所属	役職	法人名	役職	氏名
1	東京 NBC	会長	(株)ミス・パリ	代表取締役	下村 朱美
2	東京 NBC	副会長 国際部門長	(株)光・彩	代表取締役社長 CEO	深沢 栄治
3	東京 NBC	国際委員長	(株)セルフウィング	代表取締役社長	平井 由紀子
4	東京 NBC	国際委員長	サリカ(株)	代表取締役	辰野 元信
5	山梨 NBC		株式会社ポート	代表取締役	上田 昌之
6	東京 NBC		(株)フォーカスシステムズ	副本部長	江口 浩一郎
7	東京 NBC		(株)バイキューブシー	取締役 東京オフィス所長	奥田 信哉
8	香川 NBC	会長	小野(株)	代表取締役社長	小野 兼資
9	山梨 NBC		(株)アルプス	代表取締役社長	金丸 滋
10	JNB	特別参与	学校法人新潟総合学園 新潟医療福祉大学	教授	北谷 孝和
11	神奈川 NBC		(株)クレノヴァ	代表取締役	河野 靖喜
12	東京 NBC		(株)チーム・ファクトリー	取締役	坂田 一祥
13	東京 NBC		勝司法書士法人	相続後見部門長	佐藤 活実
14	山梨 NBC	副会長	株式会社フォネット	代表取締役	清水 栄一
15	東京 NBC	国際副委員長	(株)g r . a . m	代表取締役	谷村 真
16	東京 NBC	国際副委員長	辻村人財コンサル(株)	代表取締役社長	辻村 あい
17	東京 NBC		学校法人新潟総合学園	部長	成田 美佐子
18	東京 NBC		ヴェルト(株)	代表取締役	羽富 孝
19	東京 NBC	理事	(株)シーティーイー	代表取締役社長	藤田 陽司
20	東京 NBC	副会長	(株)フォーカスシステムズ	代表取締役社長	森 啓一
21	東京 NBC		吉田電気(株)	代表取締役社長	吉田 裕之
22	東京 NBC		(株)Zooops Japan	代表取締役	渡部 佳朗
23	東京 NBC	事務局	東京ニュービジネス協議会	事務局	新田 竜司

Ⅱ 期間 2018年11月27日(火) ～ 11月29日(木)

Ⅲ 渡航費用 145,800円/人 (航空券、香港でのホテル費用は含まず)

Ⅳ スケジュール

2018年11月 香港・深セン 視察ツアー行程表					
日付	時間	項目	JCE同行者 (グループ①)	JCE同行者 (グループ②)	エリア
11月27日 (火)	19:00-21:00	香港食事会 ゲストスピーカー: e-job 高橋正浩氏			香港 : 東海薈(北京道一號店) (East Ocean Seaview Restaurant) チムサーチョイ
11月28日 (水)	8:00	香港ホテル(九龍美麗華酒店)ロビー集合 → 出発	江川・鈴木		香港
	8:00-9:30	バス移動(香港 → 深圳ホテル) ・移動中、バス内にてツアーオリエンテーション実施			
	9:30-10:00	深圳ホテル(深圳上海賓館)にて荷物預け入れ			深圳市福田区
	10:00-11:30	「華強北」視察 ・電気街視察(30分) ・電気街自由行動(60分)	江川・鈴木・龍・通訳2名		
	11:30-13:00	ランチ会食(好当家福田店)+ 小休憩	江川・鈴木・龍・通訳2名		
	13:00-14:00	バス移動(華強北 → DJI本社)			
	14:00-15:00	「DJI」視察 + ショールーム見学	江川・通訳1名	鈴木・龍・通訳1名	
	15:00-15:30	バス移動(DJI本社 → テンセント本社)	江川・鈴木・龍・通訳2名		
	15:30-16:30	「テンセント」視察 + 社内見学	江川・通訳1名	鈴木・龍・通訳1名	
	16:30-17:00	バス移動(テンセント本社 → 無人コンビニ)	江川・鈴木・龍・通訳2名		
	17:00-18:00	無人コンビニ(天虹首家無人便利商店"well Go") ・視察 + WeChat決済体験			
	18:00-18:30	バス移動(無人コンビニ → 海上世界)			
	18:30-20:30	ディナー会食(濠景海鮮酒樓) ・ゲスト: JCE 深圳支部責任者 蔡氏 ・ゲスト: 可宝得環保技術(深圳)有限公司(KTB) 總經理 熨斗麻起子氏	江川・鈴木・蔡・龍・通訳1名		
20:30-21:30	バス移動(海上世界 → 深圳ホテル)			深圳市福田区	
21:30	深圳ホテル到着 → チェックイン → 解散				
11月29日 (木)	8:30	深圳ホテルロビー集合 → チェックアウト → 出発	江川・鈴木・龍・通訳2名		深圳市福田区
	8:30-9:30	バス移動(深圳ホテル → 広東未来科技)			
	9:30-11:30	「広東未来科技有限公司」視察訪問			深圳市南山区
	11:30-12:00	バス移動(広東未来科技 → 深圳湾創新広場)			
	12:30-13:30	ランチ会食(北海漁村科技园店)			
	13:30-14:00	「深圳湾創新広場」視察	江川・通訳1名	鈴木・龍・通訳1名	
	14:00-16:20	「雲創空間インキュベーションセンター」視察 ・インキュベーションセンター案内 ・邱社長講演「深圳のイノベーションエコシステム」 ・深圳スタートアップ事業紹介 ・日中企業家交流会	江川・鈴木・龍・通訳2名		
	16:30-18:30	バス移動(深圳湾創新広場 → 香港)			香港 : 日本人倶楽部 コースウェイバイ
	18:45-21:00	香港食事会 ゲストスピーカー: 三菱UFJ銀行 業務開発室 吉田常誠氏 ゲスト: 三菱UFJ銀行 香港支店 副支店長 堀尾哲亨氏 ゲスト: 香港日本人商工会議所、香港日本人倶楽部 事務局長 柳生政一氏			
	21:00	解散			

V 企画アウトライン

<背景>

1980年に経済特区に指定されてから、当時人口3万人の漁村だった深圳は、僅か40年足らずで、1,400万人に達する大都市へと成長した。莫大な外国投資を誘致し、製造業の街として発展した後、情報通信産業やサービス業を急速に拡大させ、ファーウェイ・テンセント・ZTE・DJIなど、イノベーション分野における著名なグローバルリーディングカンパニーを生み出した。JETROの統計によると、2016年の深圳のGRP（地域内総生産）は、19,500億RMB（約33兆1,500億円）であり、その内約60%をサービス産業が占めている。

この地域の経済圏は、大きく下記5つの特徴があり、大変有望な消費マーケットでもある。これからの日本企業にとっても、間違いなく射程に入れておくべき地域だと言える。

- ① 香港を抜き去り、未だ増え続ける GRP・人口・産業投資
- ② 物流・貿易・ベンチャー育成における優れたエコシステム
- ③ 平均年齢32歳という若さながら、裕福な都会人が圧倒的に多い
- ④ 企業も若く10年でメガベンチャーへと成長する事例が多い
- ⑤ 国際都市として成長を続け、中国全土と海外からの移住を多く集める

今後の世界経済の中で、間違いなく最も重要な都市の一つである深圳のビジネスモデルやエコシステムを学ぶことより、経営者としての視座が高まり、新たな挑戦のきっかけとなるはずである。

<ツアーの目的>

世界最先端を走るイノベーション都市「深圳」の今を知り、これからやってくる世界の潮流を肌で感じるにより、10年後の経営を考えるための視座を体得する。

<ツアー概要>

1. アジアのシリコンバレー「深圳」における、イノベーションを創り出すためのビジネスエコシステムを知る。
2. 「ニューリテール」に代表される中国デジタル社会のライフスタイルを知る。
3. フォーチュングローバル TOP500 に入る深圳のテクノロジー企業を訪問し、深圳を拠点に形成されるグローバルビジネス戦略を知る。

VI 開催結果

北京を「帝都」、上海を「魔都」と呼ぶのにならって、「夢都」と称されるほど、若者をひきつけている深セン。

20～30代が人口の65%を占め、65歳以上の高齢者は全人口の2%、東京都程の広さに人口3万人が住む寂れた漁村だった場所が、僅か40年程で人口1,400万人を超え、中心部は工場の街から、金融とイノベーションの街に変化を遂げつつある。

破壊的イノベーションを次々に作り出す深センは「アジアのシリコンバレー」と化し、第4次産業革命のコアとなる「IoT、AI、フィンテック、ロボット、シェアリング・エコノミー」では、今や世界最先端。

そんな世界最先端を体感すべく、企業訪問を始め、インキュベーションセンター視察、キャッシュレス決済体感、現地企業家との交流会の場を通じて、中国におけるイノベーション、ものづくりの最先端をつき進む深センの熱気と実情、IoT、AI、ロボットといった技術革新の現状を理解した。

今回の海外視察の目的は、世界最先端を走るイノベーション都市「深圳」の今を知り、未来の経営を考えるための視座を高めることだったが、短期間にどのようにして変化を遂げてきたのかというその経緯、その発展の仕組みという過去まで学ぶことができた。

特に中国の国家戦略が、顔認証等のハイテク産業支援のみならず、深センを含めた周辺地域の包括的な発展に寄与するものであるということがわかり、今後の事業展開や経営戦略に活かせる有意義なツアーとなった。

尚、次からの「視察レポート」にて、その詳細を記す。

Ⅶ 視察内容（レポート）

11月27日（火）

19:00 【講演】 e-Job Agency Limited Managing Director 高橋正浩 氏
「香港から見た深セン」

19:30 【交流会】

講演内容

【香港の基礎知識】

香港の競争力

①経済自由度指数 24年連続世界一

非常に競争力のある金融・ビジネスハブで依然として世界有数の強靱な市場。上質な法の枠組みは、財産権の保護に効果的に働いており、法の支配を力強く支えている。（米シンクタンク ヘリテージ財団調べ）

②法人税率 8.25%に半減へ 課税所得 2,800万円まで

中小企業やスタートアップを振興・育成し、経済の競争力を高めるのが狙い。

⇒深圳や上海の急成長で、中国の玄関口として香港がこれまで担ってきた役割も、

後塵を排しつつある。香港経済の規模は、中国に返還された1997年は18%相当だったが、今や、中国国内総生産（GDP）の3%未満の水準にすぎない。香港の貨物港としての地位も世界6位に低下し、上海や深圳に後れを取る。

【深センの基礎知識】

経済特区の指定から38年、3万人の漁村から1,400万人の都市へ

1980年代 下請工場「時は金なり、効率は命なり」

1990年代 世界の工場

2000年代 アジアのシリコンバレー「深セン速度」

「製造大国」から「製造強国」へ

2015年3月の全人代で、中国が製造の転換を目指す方針を示唆。同年5月、「中国製造2025」を正式に公布。



<中国製造2025 10の重点分野>



【中国の国家戦略】

●ビッグベイエリア政策

2017年7月1日、中国政府、及び香港・マカオ・広東省の各政府が『広東・香港・マカオ協力深化によるビッグベイエリア建設推進枠組み協定』を締結し、「広東・香港・マカオビッグベイエリア（中国語：粵港澳大湾区）構想が国家戦略として動き始めた。ビッグベイエリア構想は、広東省（粵）及び香港（港）、マカオ（澳）の経済協力強化を通じて一大経済圏形成を目指すもので、香港にとっては、初めて、中国本土の長期的な発展計画に組み入れられた。

●一帯一路政策

中国が進める現代版シルクロード経済圏構想「一帯一路（英語表記：Belt and Road または One Belt One Road Initiative (B&R))

「一帯」とは、中国西部から中央アジアを經由してヨーロッパへと続く「シルクロード経済ベルト」を指す。また、「一路」とは中国沿岸部から東南アジア、スリランカ、アラビア半島の沿岸部、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海上シルクロード」を指す。今後、数十年かけて、これらの地域に道路や港湾、発電所、パイプライン、通

信設備などインフラ投資を皮切りとして、金融、製造、電子商取引、貿易、テクノロジーなど各種アウトバウンド投資を積極的に進め、当該経済圏における産業活性化及び高度化を図っていくプログラムのことである。



11月28日（水）

10:00 【華強北（ファーチャンベイ）】視察

■ 概要

数多くの電子部品が取引されることで世界的に有名な深圳の電気街。深圳市福田区に位置し、南北930m、東西1,560mの広さである。エレクトロニクス製品やそのパーツにおいて、種類の豊富さ、安さ、パーツ1つから買える気軽さから、DIY愛好家やハードウェアスタートアップにとっての聖地とも言われている。

2008年に華強路で開催された第10回ハイテクフェアでは、「中国における最初のエレクトロニクスストリート」と名付けられ、中国国内における電気街としてのブランドポジションを確立した。現在、700を超える店舗、20を超えるショッピングモールが並び、そこで働く従業員は13万人に上り、電気街での年間消費額は230億元に達している。

■ 訪問主旨

中国を代表する電気街の視察を通して、深圳の発展の歴史や、現在のトレンドを知る。また、WeChat決済や無人店舗の利用を疑似体験する。





◎ 「ものづくりがなんでも出来る、揃う」

改革解放のシンボルとして 40 年、加工貿易→サプライチェーン構築→ニセモノ製品→オリジナル製品→超高速プロトタイプ、と常に進化し続けた。「なんでも必ず形にできる」 華強北地区はそのシンボル。

14:00 【D J I】視察

■ 会社概要

2006 年に深圳に設立された世界最大のドローンメーカー。グローバルマーケットにおけるドローン製造のシェアは 70%に及ぶ。中国でのドローン宅配サービスでの利用はもちろん、米国でも小売最大手ウォールマートとの提携で話題を呼ぶ。現在、社員は 11,000 人に達し、アメリカ、ドイツ、日本、北京、上海、香港にも拠点を持つ。特に、ドローンによる高性能な空撮テクノロジーに強みを持ち、民間利用だけでなく、各国の政府でも積極的に利用されている。

HP : <https://www.dji.com/jp>

■ 訪問主旨

DJI の施設見学と事業紹介を通して、10 年で世界トップの地位を得た深圳ベンチャー企業の成長戦略を知る。



15:30 【テンセント】視察

■ 会社概要

1998年に深圳に設立され、2004年に香港証券取引所に上場。

中国市場を中心としたアジア圏で圧倒的なシェアを誇るメッセージングアプリ

「WeChat」の運営企業であり、そのMAU（月間アクティブユーザー数）は9億人に達する。アジア時価総額ランキングで、アリババと1位・2位を争うグローバル企業でもあり、米Facebookの時価総額を2017年に抜き去ったことでも話題となった。（2018年は、約30兆5,000億円）WeChatでの決済システム

「WeChat Payment」は中国決済ユーザーの8割以上のシェアを獲得しており、その人数は8億人を超え、決済金額にして約1,450兆円にも上る。

Tencentが本社を構えるのは、広州省深センの南山区と呼ばれるエリアで、BaiduやAlibabaの他、多数のインキュベーション施設が集まっている。民生用ドローンで有名なスタートアップDJIの拠点も含まれる。

HP : <https://www.tencent.com/en-us/>

■ 訪問主旨

テンセントの施設見学と事業紹介を通して、アジアを代表するグローバル企業の今後の動向とその影響力を知る。

テンセント本社ビル



創業10人のメンバーの1人



16:00 【騰訊众创空間】視察

Tencent が手掛けるインキュベーション施設「騰訊众创空間」。中国国内におよそ20箇所も存在する。テンセント経営者がトップダウンで関与する、グループの中でも非常に重要なポジション。



17:00 【無人コンビニ】視察



11月29日（木）

9:30 【広東未来科技有限公司】視察

■ 会社概要

2015年8月に深圳にて創業したスタートアップ企業。

特にスマートフォン向けの3Dソフトウェアソリューションに強みを持ち、ビデオコンテンツの3D化・パノラマ化を実現するテクノロジーをコンテンツ開発会社へ提供している。

その他、ディスプレイのない場所へデジタル情報を投影し、タッチ操作を可能にする「プロジェクションタッチ」のテクノロジーを開発し、特にスマートホームビジネスでの活用を視野にアプリケーションの実用化を進めている。また、IoTやVR関連のソフトウェア開発にも長けている。

開発スピードの速さを武器に、創業1年目にして、エンターテインメント業界の様々な企業から提携や取引のオファーが来ており今後の成長が期待されている。

HP : <http://www.futrtech.com/>

■ 訪問主旨

深圳の今を代表する新しいテクノロジー開発を推進するスタートアップの視察を通して、未来のビジネスモデルや深圳で起業することの可能性について知る。



13:30 【深圳湾創新広場】視察

■ 施設概要

深圳市南山区に設立され、昨年オープンした巨大なサイエンスパーク。次世代のBAT（Baidu・Alibaba・Tencent）を生み出すために、エンジェル投資家、ベンチャーキャピタル、スタートアップ企業、大企業、スタートアップ支援事業者などを1拠点に集約し、イノベーション分野のエコシステムを形成することを目的として、政府主導で設立された。様々なスタートアップのプロモーションやショールームの場としても活用しており、業界人やメディア関係者も数多く訪問している。

ITやバイオなど、先端産業の代表的な上場企業やスタートアップが入居しておりその数は300社を超える。すでに新しい契約も次々と見込まれており、今後数年間で1,500社が入居し、そこで働く人口は30万人を超える見通しである。

李克強首相も視察し、先進的でダイナミックなインフラ設備と、入居する企業のエコシステムが、中国全土から注目を集めた。大企業の研究施設のほか、スタートアップが自らの試作品を紹介するショールームなどもあり、深圳市南山区の今を象徴する場所と言える。

■ 視察主旨

深圳市南山区を代表するサイエンスパークの施設見学を通して、先端産業やスタートアップのダイナミズムを知る。



14:00 【雲創空間インキュベーションセンター】視察

■ 会社概要

2017年設立。投資家とスタートアップ企業をマッチングさせ、次世代のファウンダーやテックを生み出すためのインキュベーションプラットフォームとして「雲海匯」と「深圳企聯」の共同出資で設立された深圳市企聯雲創空間創投發展有限公司が運営している。深圳企聯は、深圳で最も早く設立された社会団体で、規模は最大で影響力は最も強く、5,000社の企業会員と1万の団体を抱えている。

このネットワークとスタートアップとのジョイントでは、非常に強力な推進力がある。また、同社のCEOを務める邱道勇氏は、中国におけるインターネットマーケティングの著名な専門家であり、中国国内にエンジェル投資家のエコシステムを広げた立役者としても知られている。本インキュベーションセンターの主目的は、イノベーションをコアとして、先端産業技術 - IT・AI・金融・ライフサイエンスなど - を積極的に取り入れ、グローバル企業を誘致して国際的な産業プラットフォームを築くことである。

15:00 【講演】

■ 講演者プロフィール 邱道勇 氏 (中国湖北省襄陽市の出身)



- ・雲海匯 創始者
- ・雲海航盛 董事長
- ・深山老林集団 創始者
- ・エンジェル投資家
- ・深圳市企聯雲創空間創投發展有限公司 總經理

インターネットマーケティングの著名な専門家であり、インターネットブランディング戦略顧問の権威である。中国移動産業応用連盟新メディアミニマーケティング業務委員会秘書長、浙江大学・華南理工大学客員教授、深圳クラウドファンディング同業工会連席会長、中国電子ビジネス協会高級専門家などを歴任。

「2012年度中国モバイル電子ビジネス先鋭人」、「2013年度新メディアミニマーケティング卓越貢献賞」、「2014年度中国十大企画専門家」など受賞歴多数。これまでの出版書籍に、「WeChatが世界を変える」「自分自身を導くこと」「あなたの仕事はどこにある?」「春の狂想」等があり、5年連続で30万冊以上を売り上げる。

その文章は、「中外100位教育リーダー経典」「経理人」「売上とマーケット」「企業家」「夏智庫」等に収録・引用され、また、180以上の権威あるメディアにその活動が取り上げられている。「一帯一路」経済政策の号令のもと、国境を越えたクラウドファンディングの理念を中国で初めて提唱した。世界中の企業家を深圳に集める投融資マッチングを開催し、更に、中国企業のグローバル化を支援している。

■ 訪問主旨

中国のインキュベーション業界を代表する邱社長の講演を通して、深圳のスタートアップエコシステムや、現地スタートアップの成功要因について知る。また、現地のスタートアップ企業と情報交換を行い、交流を深める。



日中企業家交流会の様子



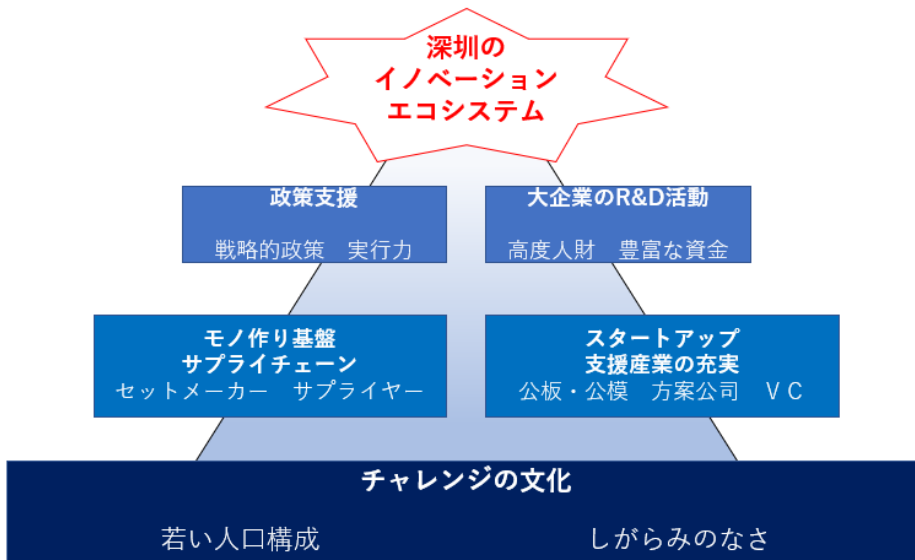
18:45 【講演】三菱 UFJ 銀行 アジア法人営業統括部

アドバイザー室長 吉田常誠 氏

「深圳から生まれる中国のニューエコノミーに日系企業はどう取り組むか」

講演概要

■深圳には新興産業が育つ土壌が確立



■粵港澳大湾区のインフラ整備が進む

中核都市間を結ぶ交通インフラ整備を行い、1時間生活圏を形成することが目標（高速鉄道、海上大橋等）

今後は、ヒト・モノ・カネの自由な流通を実現させるための支援措置が導入される見通し。

■香港の再工業化=イノベーションハブ化

「香港は科学技術の人材が豊富であり、イノベーションを核とする中国の発展に重要な存在。香港と本土の科学技術協力を推進するため、香港を国際的なイノベーション・テクノロジーのハブとして発展させていくことを支持する」

（習近平国家主席 2018年5月）

□製造業が中国に低コストを求める時代は終焉、従来の海外進出モデルでは新しい中国を活用できない

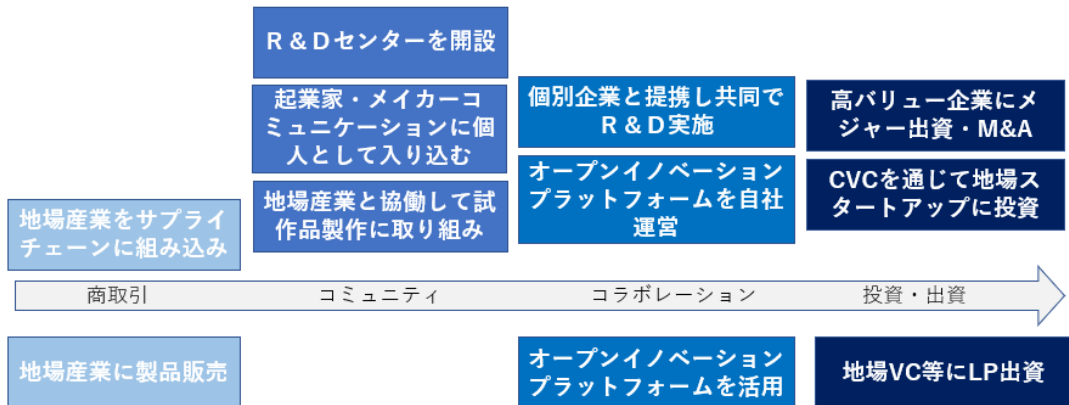
- 人件費の高騰をはじめとした周辺環境の変化による生産コスト上昇により、中国の低コストに頼る製造スタイルは既に優位性を失っている
- 特に深センでは都市化が進むことにより環境問題が重複され、全ての工程を深センで行うことが出来ない、あるいは移転を迫られるケースも散見される。

⇒深センの役割は労働集約型製造センターからハイエンド製造や研究開発に転換。

結論

①深センローカル企業と事業展開するには

- 地場産業との協働が不可欠となるケースが想定される
- 従来からの地場産業の市場活用に加え、高度人材の集約を活かしたR & Dへの取り組みも有力な選択肢になる
- 地場産業との協働においては、パートナー探しが重要であり、そのため地場のインサイダーとなるべくコミュニティに入り込んでいくことが理想。
- 大企業の取り組みとしてはややハードルが高いため、コラボレーションプラットフォームの利用も一つの方法。



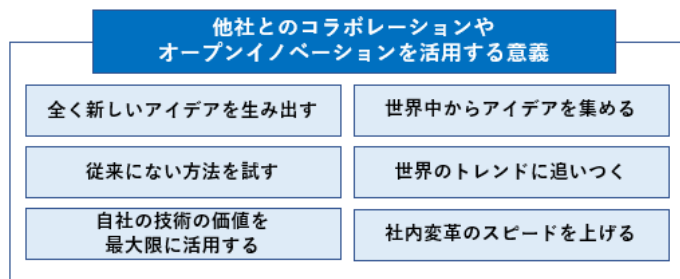
②深センのパワー＆スピードを活用することの意義

= 中国の新たな強みを活かすことは企業文化の変革につながる

- 深センの特徴は、その圧倒的なスピード感と、オープンプラットフォームによるコラボレーション。
- これは深センに限らず、世界でイノベーションが活発な地域に共通した特徴。
- 日系企業がこうした特徴を理解し適応するためには、企業文化の変革が必要な場合が多い

深センコミュニケーションに入り込むヒント

- 将来像・問題意識の明確化
- インプットよりアウトプット
- 深センスピードに対する理解
- 試行錯誤を認める企業文化



新しい中国との関わりは企業文化の変革に迫る





一般社団法人東京ニュービジネス協議会

<http://www.nbc-world.net/>

107-0052 東京都港区赤坂1-11-28 ユニゾ赤坂一丁目ビル7F

TEL : 03-3584-6080 FAX : 03-3584-6081



公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会

<http://www.nbc-japan.net/>

107-0052 東京都港区赤坂1-11-28 M-City赤坂一丁目ビル7F

TEL : 03-3584-6077 FAX : 03-3584-6081